

爬虫類

兵庫県の爬虫類は、カメ目 5 種（アカウミガメ、ニホンイシガメ、クサガメ、ミシシippアカミミガメ、ニホンスッポン）、トカゲ目 12 種（タワヤモリ、ニホンヤモリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、タカチホヘビ、アオダイショウ、シマヘビ、ジムグリ、ヒバカリ、シロマダラ、ヤマカガシ、ニホンマムシ）、合計 17 種の生息が確認されています。

このうち、全国的にもアカウミガメの産卵場所やタワヤモリの生息場所は限定されています。アカウミガメとタワヤモリです。アカウミガメは産卵場所として砂浜を利用し、明石や洲本で産卵が確認されており、タワヤモリは家島群島および淡路島の海岸の岩場を生息場所としています。他の在来種は基本的に広く県内に分布しますが、普通種でも生息数の減少が危惧されています。

しかし、爬虫類は他の分類群に比べて生息情報の収集が遅れており、未だ不明な点も多い状態です。特に、森林生のヘビ類は、発見と捕獲が困難なことから、分布情報は十分ではありません。外来種についてみますと、カメ類では、ペット等の放出によるものと考えられるミシシippアカミミガメ（国の要注意外来生物^{*}）が県内の池沼や河川に広く分布し、在来種であるクサガメやイシガメが減少していることが各地で報じられています。

このほか、県内各地でワニガメ（国の要注意外来生物）や特定外来生物に指定されているカミツキガメの捕獲が散見されていますが、今のところ県内での繁殖は確認されていません。

絶滅危惧の状況をみますと、兵庫県レッドデータブック 2003 には、8 種の爬虫類が掲載されています（表 3-1）。A ランクのアカウミガメは、もともと個体数が少なく、県内での上陸個体数は横ばい状態です。個体群の制限要因としては、上陸可能な砂浜の消失などが関係するため、県内で優れた砂浜の保全はもちろん、事故や混獲の防止など、全国レベルでの保護対策に協力することが重要です。また、砂浜の維持には、流域からの健全な土砂供給が不可欠です。

タワヤモリについては、海岸沿いから山地にかけての岩場に生息し、岩場の隙間を産卵場所とするため、自然海岸の保全が重要です。

トカゲ目については、詳細な生息情報が不十分な部分もありますが、一般的には生息場所となる森林の伐採や荒廃と関連して、餌となるカエル類や昆虫、小動物が減少することが個体数の減少に関係していると考えられています。そのため、荒廃した森林の再生や水田等におけ

る生態系の保全と再生が重要です。

ミシシippアカミミガメやカミツキガメなどの外来種については、駆除体制や殺処分、防除体制が遅れているため、これを確立することが重要です。

表 1 兵庫県における爬虫類の貴重性ランクと分布
(兵庫県版レッドデータブック 2003 より)

目名	標準和名	兵庫県 RDBランク	県内分布					
			神戸・阪神	播磨東部	播磨西部	但馬	丹波	淡路
カメ目	アカウミガメ	A			-	-	-	
カメ目	ニホンスッポン*	要調査	-	-				-
トカゲ目	ニホンヤモリ	要注目					-	
トカゲ目	タワヤモリ	A	-	-		-	-	
トカゲ目	タカチホヘビ	C		-				-
トカゲ目	ジムグリ	要注目		-				
トカゲ目	シロマダラ	C					-	
トカゲ目	ヒバカリ	要注目						

*は在来個体群を示す。

県内分布 : 1994 年以降に確認されている地域、 1993 年以前にしか確認されていない地域